

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 2 報
千葉県農林水産部
平成 24 年 6 月 15 日

- 早生品種は幼穂を確認して、遅れずに穂肥の施用を
- 中干し後は湛水管理で品質向上を
- 加里を適正量まで施用し、放射性セシウム吸収抑制を

【 生 育 概 況 】

田植え以降の天候は良好で、生育は進んでいましたが、6月12日以降の低温によって、生育のスピードは平年並に近づきつつあります。また、茎数は確保されていますが、やや多い傾向なので、今後の穂肥のやり方に注意する必要があります。

6月9日に関東甲信地方が梅雨入りしました。今後、低温が続く可能性があるため、低温の時は湛水し、深水で管理しましょう。県南の一部地域では、早生は幼穂形成期に入りました。適期穂肥のために幼穂の確認をしましょう。

表 1 品種別の生育状況 (6月15日現在)

品種	植付時期	平年比※			
		葉令の進み	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日頃	並～やや早	並	やや多	並～やや淡
ふさこがね	4月20日頃	並～やや早	並	やや多	並～やや淡
コシヒカリ	4月20日頃	並～やや早	並	やや多	並
	5月1日頃	並～やや早	並	並～やや多	並
ふさのもち	4月20日頃	やや早	並	やや多	並
	5月10日頃	やや早	並	やや多	並

※ 過去5か年(2007～2011年)の平均値との比較。
ただし「ふさのもち」については2010～2011年の平均値との比較。

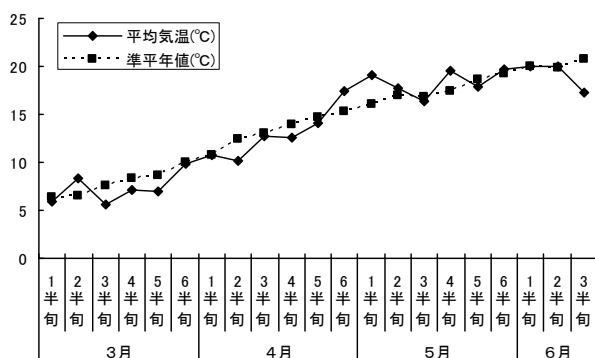


図 1 日平均気温の推移 (佐倉市)

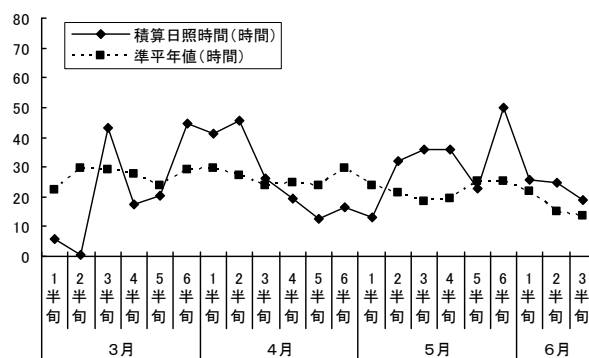


図 2 日照時間の推移 (佐倉市)

表 2 品種別の幼穂形成期と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測（月日）				冷害危険期 予測(月日)
		県北	九十九里	内湾	県南	
ふさおとめ	4月20日	6月21日	6月17日	6月17日	6月15日	6月25日
ふさこがね	4月20日	6月21日	6月18日	6月18日	6月15日	6月25日
コシヒカリ	4月20日	6月30日	6月28日	6月28日	6月26日	7月 6日
	5月 1日	7月 4日	7月 2日	7月 2日	7月 1日	7月11日

※ 幼穂形成期予測は日平均気温に基づく発育段階予測結果。

【 これからの管理のポイント 】

■ 放射性セシウム吸収抑制対策（加里肥料の施用）

土壌中の加里含量が少ないと見込まれる水田では、中間追肥や穂肥で加里の施用を行いましょう。詳しくは、P.6を参照してください。

■ 水管理

○ 中干しとその後の水管理

基本的な水管理は①～④のとおりです。特に「③」は自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために必要な技術です。「安心・安全」な米作りのために注意して管理しましょう。

- ① 中干しは強過ぎないように、土が湿って足跡が残る程度
- ② 中干しから出穂3週間前までは間断かんがい
- ③ 出穂3週間前から出穂2週間後までは湛水管理
(幼穂を確認したら、この期間は田面が露出しないように管理する)
- ④ 出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがい

○ 低温時には湛水

幼穂形成期以降に平均気温 20℃以下の低温が続くことが予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。

表 3 低温時湛水深の目安

幼穂形成期（出穂 25 日前）から冷害危険期（出穂 15～10 日前）	湛水深 10cm 程度
冷害危険期（出穂 15～10 日前）	湛水深 20cm 程度

■ 早生の穂肥

○ 幼穂長を確認し、穂肥は適期に

■ 穂肥の適期を判断するために、幼穂を確認しましょう。

幼穂形成期は幼穂長 1mm(出穂 25 日前)の株が全体の 8 割に達した時点です。ここから数日が出穂 3 週間前(湛水管理開始期)になります。

穂肥の適期は品種ごとに次項以降を参照してください。

ほ場の中で中庸な生育をしている連続した 5 株程度を選んで、各株の最長茎の幼穂長を測定します。1mm を超えた株の数が測定した株数の 8 割に達した日が幼穂形成期です。

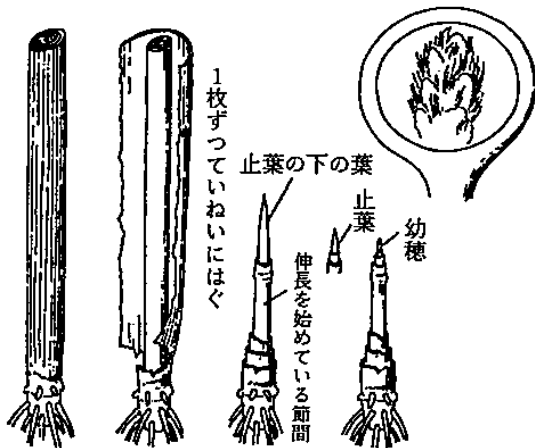


図3 幼穂の確認方法

(出典：農文協 農業技術体系作物編 P134)

▽ふさおとめ

4月20日植えの「ふさおとめ」は6月15日頃から幼穂形成期を迎えています。穂肥適期は幼穂形成期～出穂前18日(幼穂長が1mm～10mm)です。穂肥の遅れは食味低下の原因になるので注意しましょう。施肥量は、砂質土や壤質土では窒素と加里を10a当たり成分量で各3kg。房総南部の粘質土では1～2kgが目安です。表4の目安より茎数が多い場合は、窒素量を減らしましょう。

表4 「ふさおとめ」穂肥施用の目安(幼穂形成期)

品種	草丈 cm	穂肥施用目標茎数			葉色(カラー スケール値)
		砂質	壤質	粘質	
ふさおとめ	55 以下	570～620 本/m ² (31～34 本/株)		520～570 本/m ² (29～31 本/株)	4.0

※ 茎数の()内は30cm×18cmで植え付けされた時の1株平均茎数

■ 穂肥の遅れは品質低下の要因

図4は「ふさおとめ」玄米の粒厚別タンパク含量について、適期の穂肥と7日遅れの穂肥とで比較したものです。穂肥の遅れが玄米タンパク含量を高め、食味に悪影響を及ぼす可能性を示しています。

穂肥の適期施用は、収量確保だけでなく、米の品質向上の鍵を握る技術でもあります。必ず自分で幼穂長を確認しましょう。

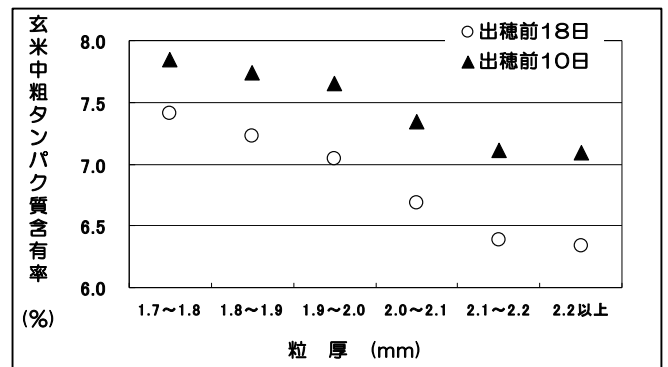


図4 穂肥施用時期と玄米の粒厚別粗タンパク含量の関係

▽ふさこがね

4月20日植えの「ふさこがね」は6月15日頃から幼穂形成期を迎えています。穂肥適期は出穂前18日（幼穂長が10mm）です。品種特性上、葉色は「ふさおとめ」よりやや濃いですが、施肥量は、窒素と加里を10a当たり成分量で各3kgです。

表5 「ふさこがね」穂肥施用の目安（幼穂形成期）

品種	草丈 cm	穂肥施用目標茎数	葉色（カラー スケール値）
ふさこがね	60～65以下	450～500 (25～27本/株)	5.0

※ 茎数の（ ）内は30cm×18cmで植え付けされた時の1株平均茎数

▽コシヒカリ

「コシヒカリ」の幼穂形成期は6月下旬以降と予測されるので、穂肥施用については第3報（6月26日発行予定）で記載します。

■ いもち病防除

梅雨期はいもち病が発生しやすく、注意が必要です。平均気温20～25℃で曇雨天が続く場合、葉いもちの発生が懸念されます。発生が見られたら早期に薬剤防除しましょう。

薬剤は5ページの表6を参照してください。

■ 出穂2週間前までの畦畔雑草防除

畦畔雑草はカメムシ類が水田に侵入するのを助長します。出穂前2週間までに畦畔雑草を刈り取りましょう。



図5 ふさこがね（4月20日植え）

6月15日（千葉市緑区刈田子町）の様子

茎数は並～やや多い。間もなく幼穂形成期に入る。今後、湛水管理を行う。

表 6 いもち病の主な防除薬剤

作用性	薬剤名	使用時期／使用回数	使用時期／使用回数の注記	10a 当たり散布量
予防	オリゼメート粒剤	右記／2回	葉いもちには初発 10 日前から初発時に、穂いもちには出穂 3～4 週間前（ただし、収穫 14 日前まで）に散布	3～4kg
	キタジン P 粒剤	右記／2回	葉いもちには初発 7 日前から初発時に、穂いもちには出穂 20～7 日前に散布	3～5kg
	コラトップ粒剤 5	右記／2回	葉いもちには初発 10 日前から初発時に、穂いもちには出穂 30～5 日前に散布	3～4kg
	// ジャンボ	右記／2回	葉いもちには初発 20 日前から初発時に、穂いもちには出穂 30～5 日前に散布	10～13 個
	ブイゲット粒剤	収穫 45 日前まで／2回	葉いもちには初発 20～7 日前に湛水散布	3kg
	フジワン粒剤	収穫 30 日前まで／2回	葉いもちには初発 10～7 日前に、穂いもちには出穂 30～10 日前に湛水散布	3～5kg
	ラブサイド粉剤 DL	収穫 7 日前まで／3回		3～4kg
予防・治療	イモチエース粒剤	収穫 35 日前まで／1回		3kg
	カスラブサイド粉剤 DL	穂揃期まで／2回		3～4kg
	ノンプラス 粉剤 DL	収穫 21 日前まで／2回		3～4kg
	// フロアブル 1,000 倍液	収穫 21 日前まで／2回		下注参照
	ブラシン 粉剤 DL	収穫 21 日前まで／2回		3～4kg
	// フロアブル 1,000 倍液	収穫 21 日前まで／2回		下注参照
治療	カスミン 粉剤 DL	穂揃期まで／2回		3～4kg
	// 液剤 1,000 倍液	穂揃期まで／2回		下注参照

注：フロアブル剤、液剤の 10a 当たりの散布量の目安は、次のとおり。

本田初～中期：100～120 リットル、穂ばらみ期・出穂期：120～150 リットル

米の放射性セシウム吸収抑制対策

～中間追肥または穂肥で加里を補いましょう！～

今年の4月1日から、米の放射性セシウムに係る新たな基準値は1キログラム当たり100ベクレルとなり、昨年より厳しくなりました。

各生産者が米の放射性セシウム吸収抑制対策に取り組み、早場米産地として、地域の米がスムーズに出荷できるように努めましょう。

<ポイント> 加里肥料を適正量まで施用しましょう！

県の加里の施用基準量は、基肥 6～8kg/10a、穂肥 1～3kg/10a です。
加里を施用することによって、放射性セシウムの稲への吸収を抑制することができます。
なお、倒伏を防ぐため、窒素は適正量とします。

特に土壤中の加里含量が少ないことが見込まれる以下の水田では、中間追肥や穂肥で加里の施用を行いましょう。

- ①倒伏を回避するため、基肥の施用量を控えた水田。
- ②一発肥料のみの施用で穂肥分の加里が不足している水田。
- ③耕畜連携等により水田から稲わらを持ち出し、堆肥を入れなかった水田。
- ④土壤に含まれる加里が少ないと思われる（砂質）水田。

施肥に際しての注意点

- 一発肥料を施用している場合は、穂肥分の加里が含まれていないため、中間追肥（幼穂形成期前の施肥）または穂肥で、窒素成分を含まない加里肥料（ケイ酸加里や塩化加里）を施用します。
- 基肥と穂肥を体系で施用している場合は、穂肥の適期にNK化成等の窒素と加里を含む肥料を施用します。また、中間追肥を行う場合は、稲の倒伏を防ぐため、窒素成分を含まない加里肥料を施用します。

施肥体系	中間追肥 (幼穂形成期前の施肥)	穂肥
一発肥料	窒素成分を含まない加里肥料	
基肥+穂肥	(窒素成分を含まない加里肥料)	窒素・加里肥料

加里肥料の施用量：いずれも加里成分で 3kg/10a

成分から換算すると ・ケイ酸加里：15kg/10a または
・塩化加里：5kg/10a となります。